

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。	・全教員が指導案を作成し、公開授業を行う。 ・全国学力学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。 ・シラバスを活用し、学期の始めに評価の方法を説明し、適切に評価を行う。 ・タブレットなど、ICT機器の研修を行い、授業においてICT機器の利用率を高める。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。	・わかりやすい工夫した授業を行う。 ・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 ・保護者・生徒アンケートにおいて「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答する割合を85%以上にする。	B	・「わかりやすい授業に努めている」と回答した保護者の割合は 87 %と高率であるが、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した生徒は 74 %しかおらず、生徒と保護者の間に差が生じている。 ・今年度から評価の仕方が変わったが、「適切に評価している」との回答が生徒も保護者も目標値を上回っており、シラバスを用いた効果が認められる。	・毎回の授業でめあてと振り返りを必ず行い、その後授業者から生徒に対してフィードバックをする。この一連の流れを通して達成感が得られる授業づくりをする。 ・今後もシラバスを活用し、学期の始めに評価の方法を説明し、適切に評価を行う。	・コロナ禍でも校内授業研究会を開催し、指導方法の在り方や生徒の学習状況の把握に努め、授業改善を目標に前向きな取り組みが見られる。 ・個々の教員の授業改善への努力が顕著で、シラバスの作成やICT機器の活用など、一体化した指導体制が構築されている。 ・生徒の何が分かりにくいかを、具体的にアンケートなどで確認するとよい。 ・保護者の評価よりも生徒の受取が重要、シラバスを活用し、授業準備がスムーズになるようにする。 ・毎回の「めあて」を大切にし、「この1時間に何を学習するのか」を明確にすることで、到達度に影響する。 ・評価基準が明確なのはとても分かりやすくてよい。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・タブレットやスクールタクトなどを活用して、授業のICT化を図る。 ・タブレットを使って表現活動を行う。 ・コグトレを週に1回導入し、集中力や認知力の向上を目指す。 ・1分間スピーチの発表会を学年を越えて実施する。 ・図書館のレイアウトを変更し、授業で使いやすい配置にする。	・引き続き評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を85パーセント以上に維持する。 ・教員、生徒共にコグトレに慣れ、定着させる。 ・ポスターを掲示し、図書室の利用を促す。	B	・評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を91パーセントと上回った。 ・週1回のコグトレを定着させることができた。 ・レイアウトが変わり授業で利用しやすい図書室になったが、限られた学年や教科でしか利用されていないことが課題である。	・引き続き評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を85パーセント以上に維持するためにICTを活用した活動やスピーチに積極的に取り組む。 ・コグトレに関する実態調査を行い、現状を把握する。 ・図書室利用に関する実態調査を行い、利用を促す。	・ICT機器の活用としてのタブレット等を使用して表現活動の充実を目指したのは意味があるが、成果としての結果が認められない。 ・学校として「1分間スピーチ」、「コグトレ」を継続して取り組んでいる活動で、生徒の思考力・判断力・表現力の育成には顕著な効果が認められる。 ・図書室のレイアウトを変更し、学習課題の援助や興味関心の高揚等、有効で、教員・生徒が使いやすい図書室を目指していることに意義が認められる。 ・コグトレやICT化と思考力・判断力の関連が明確でない。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを利用し、見通しを持って学習に取り組むように指導する。 ・宿題を通して、家庭学習をする習慣を身につけさせる。 ・家庭での携帯電話やスマートフォンの使用においてはモラルやルールを守り、節度をもって使用するよう指導する。 ・目標やねらいを明確にし、振り返り活動を取り入れた授業に努める。 ・週末課題を毎週設定する。未提出者には学習優先に参加し、課題に粘り強く取り組むように促す。 ・タブレット端末を活用した活動を積極的に授業に取り入れる。	・Q3「授業では学習内容が理解できて楽しい。」の項目において回答した割合が80%以上になる。 ・Q17「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している。」の項目において回答した割合が90%以上になる。 ・Q21「家庭で勉強する習慣がある。」の項目において回答した割合が85%以上になる。 ・Q30「携帯・スマートフォン等の使用について親子で約束を決めて与えている。」の項目において「はい」と答えた割合が85%以上になる。	B	・Q3「授業では学習内容が理解できて楽しい。」の項目において回答した割合は前年度より3.8%減少し、74.7%であった。 ・Q17「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している。」の項目において回答した割合が93%で、達成することができた。 ・Q21「家庭で勉強する習慣がある。」の項目において回答した割合は前回より1.7%減少し、82.5%であった。 ・Q30「携帯・スマートフォン等の使用について親子で約束を決めて与えている。」の項目において「はい」と答えた割合は67.2%であった。	・「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している」と生徒はとらえているものの、楽しいかどうかという観点ではパーセンテージが下がる。工夫を継続しつつ、どうすれば学習が苦手な生徒でも楽しいと感じるような授業展開をするか試行錯誤が必要である。 ・家庭学習においては、週末課題の設定等も効果が出ていると思われるが、課題として生徒に学習をさせるのではなく自発的な学習に取り組むことができるような働きかけをしたい。 ・携帯電話等の使用については、今後も継続して講演会を繰り返し開くとともに、懇談等で直接保護者へ家庭内でのルール設定をお願いするなど啓発に取り組みたい。	・アンケート調査から、「先生は分かりやすく教え方を工夫している」と93%の生徒が認めながら、「学習内容が理解できて楽しい」が75%に減少傾向が見られ、家庭での学習についても減少傾向にあることに杞憂を感じる。 ・今後、西中の求める生徒像をより明確にして、生徒の学習意欲を向上させる方法について熟考し、見通しを持つ学習、スマートフォン等の使用法、宿題や週末課題、タブレットの活用法など、それぞれ詳細に再点検が求められる。 ・「今日はこれを学習する」ということが明確にし、加えて次への展望をがはっきりするような取り組みが大切。 ・スマートフォンの使用には一定の時間の制限が必要。対策を講じる必要がある。 ・青ペンを使うと記憶が定着しやすいとすることがある。そのようなことを取り入れても良いのでは。

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。	・職員朝礼時に職員間で情報交換を行い、その日の生徒指導に生かす。 ・Q-Uを実施し、具体的対応を考え、学級経営に生かす。 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での合唱練習や生徒会活動を取り入れ、縦のつながりを実感できる取り組みを行う。 ・1分間スピーチを取り入れ、「将来どんな人でありたいか」などの内容を人前で発表する機会を設け、自身につながるようにする。 ・小中連携の研修などで、児童生徒の情報について共有する。 ・教育相談週間を設け、生徒の実態把握を行う。 ・総合の時間に将来したいことや、職業についての内容を取り入れ、1、2年次から進路について考えられるような取り組みを行う。	・生徒アンケートにおいて、「自分に自信を持って行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」について、85%以上を維持する。 ・保護者アンケートにおいて「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることのできる」について85%以上を維持する。 ・生徒アンケートにおいて、「夢や将来したいことやつきたい職業がある」について、75%を上回る。	C	・「自分に自信をもって行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」項目については、87.3%に達し、目標を達成している。 ・保護者の「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることのできる」項目については88.0%に達し、目標を達成している。 「夢や将来したいことやつきたい職業がある」項目については、肯定的意見が69.4%であり、達成していない。	・新型コロナウイルス感染防止対策により、トライやるウィークでの事業所訪問ができなかったため、子どもたちにとって職業についての具体的なイメージがつきにくい状況となっている。そこで、学校内でのキャリア教育を増やす必要がある。 ・知識的な進路指導やキャリア教育だけでなく、働くことの意義について考えられるような取り組みを行う。 ・夢をもつことの大切さや、仕事のやりがいについて伝えられるような講演会を行う。	・行事が中止や変更となり、生徒の自尊感情を育む指導、特に夢や将来の職業への期待を持つ、若者としての生徒を育むことに課題が見られる。 ・改善等で、キャリア教育や進路指導等の具体化しかないので、他のことへの改善にも取り組むべき。 ・子どもたちの夢に希望を与えて欲しい。 ・トライやる・ウィークで職業体験をすることは非常に意義があるのに、この2年それが出来なかったことが残念。何か代替えの取り組みを考える必要がある。 ・将来のことを考えている生徒が多く素晴らしい。将来ビジョンが描けないからといって、焦る必要は無く、成長する中で考え方も変化するので、その中で見つければ良いと思う。
	生徒指導	・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校長欠生徒に対して、組織的な対応で、登校刺激を与えることができるようにする。	・毎学期、教育相談週間を設け、生徒の声に耳を傾ける。 ・いじめ問題に関する道徳教材を使い、未然防止ができるようにいじめ問題について深く考える時間をもつ。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行い、早期発見ができるように実態把握を行う。 ・報告、連絡、相談体制を確立し、早期対応ができるように組織的に動く。 ・いじめ防止対策委員会(学期に1回)や不登校対策委員会(月に1回)を必ず実施し、情報共有を行う。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合を85%以上にする。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合を85%以上にする。	A	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合が94.6%となり、目標を上回った。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合が85.6%となり、若干ではあるが目標を上回った。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合が86.2%となり、若干ではあるが目標を上回った。 ・以上の結果より、一定の指導の効果を得ることができた。取り組みが形骸化しないように毎年の見直しをきちんと行い、定着を図る必要がある。	・職員間で報告、連絡、相談体制を強化し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して生徒一人ひとりの対応について考えていく。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったらすぐに聞き取りを行い、早期発見、早期対応ができるように迅速に行動を行う。 ・毎週の生徒指導委員会や毎月の不登校対策委員会、毎学期のいじめ対策委員会で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応を丁寧に行えるようにしていく。	・行事や日々の学校生活で、生徒が全面に立った体制が構築され、生徒を大切にした指導体制が認められる。 ・いじめ等の問題では表面化する段階になると手遅れになることがあるので、日頃から生徒の変化をつかむことが大切なので、あらゆる情報に敏感に反応する必要がある。 ・生徒会を中心に生徒が考える機会や仕組みを作ることも検討する。

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理や啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・保健だよりを活用し、健康の保持増進に関心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し、規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。 ・コロナウイルス感染症予防について常に声かけをし、生徒が自ら必要に応じて判断をできるようにする。	・保護者の「早寝早起き朝食を摂るなど規則正しい生活を心がける」の評価を90%以上にする。 ・保護者における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を90%以上にする。 ・生徒における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・コロナウイルス感染症における正しい感染対策を理解し、自主的に実施することができる。	B	・保護者の「早寝早起き朝食を摂るなど規則正しい生活を心がける」の評価は81.4%と昨年からあまり変化が見られなかった。 ・保護者における保健だよりの認識は93.8%と目標を上回ることができた。一方、生徒の認識は84.5%にとどまった。 ・スポーツテストでは、昨年より記録を更新できた生徒が多く、バッチ数も増やすことができた。 ・コロナウイルス感染症対策では、日々の指導もあり個々での対策をきっちりとれるようになっている。	・保健だよりは生徒への認識をあげられるよう工夫していく。さらに、保護者と生徒との間で早寝早起き朝ご飯の重要性についての認識に差があるため、引き続き呼びかける必要がある。 ・担任に加え、部活動においても個々への呼びかけを意識して行うことで「早寝早起き朝ご飯」の意識付けを行う。 ・保健体育の授業では、運動と食事、睡眠の重要性を理解させ、実践する意欲を持たせる。	・体力向上、保健管理、事故防止、「食」の指導で、保健だよりや授業等で啓発することは大切で意義がある。しかし、「早寝早起き朝食をとる等規則正しい生活を心がける」生徒が81.4%であり、2割ほどの生徒にまだ課題がある。 ・「早寝早起き朝ご飯」の意識付けを行うことは大切だが、浸透しにくい場合は、一つ一つ確実に取り組むことも考えるべき。	
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・学校だより、学年だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・コロナ禍でも、感染症対策を行い、オープンスクールを可能な限り実施する。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。 ・1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ・ホームページや学校だより、学年だよりなどの内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。 ・緊急時の連絡をホームページとメールを使って発信する。	・情報発信を継続する。時々、ホームページにアクセスする家庭60%以上を目標にする。 ・地域と学校との間で双方向の活動が行われている状況を継続する。	B	・学校だより、学年だよりの発行は積極的に行えたが、ホームページはシステムの変更に伴い、更新頻度が下がった。それにより、アクセスする家庭は52%と目標に至らなかった。 ・コロナ禍、感染症対策などを行いながら、オープンスクールを可能な限り実施した。 ・教職員とPTA役員との顔の見えるより良い関係作りに努めた。 ・進路説明会は人数を限定した開催になったが、冊子の配布などで進路に関する情報を発信した。 ・ホームページの閲覧数は減ったが、学校だより、学年だよりなどは77.8%の家庭で読まれている。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習、トライやるウィークなどへの協力者登録を進めることができた。 ・緊急時の連絡をホームページとメールを使って発信した。	・タイムリーに学校の様子を、その都度ホームページにあげる。 ・緊急性の高い連絡は、メール配信とともに、ホームページに掲載する。 ・プリントの配布に、google formの活用を検討する。 ・全課程が緊急メールを受信できるよう、保護者にメール登録をしてもらうよう引き続き依頼する。 ・コロナが収束した際には、以前のような積極的な学校公開につとめる。 ・コロナ禍で現状行えないことも、何ができるのか考え、より良い形で実施できるように追究する。	・学校だよりや、学年だよりにより学校や生徒の様子を発信し広報活動に尽力していることは意味がある。しかし、ホームページによる情報発信をしているが、そのアクセス数が芳しくない。この2年のコロナ禍で、即時性が求められる連絡や相談が増加しているので、それに対応するよう改善や修正が必要である。 ・地域への情報発信が少ないので、対策を講じるべき。 ・PTAと学校運営協議会との連携や教職員も含めた懇談会を実施し情報交換をする。 ・ホームページが見づらいので、どこに何があるのかを分かり易くして欲しい。
次年度に向けた重点的な改善点 学力の向上については本年度も引き続き高評価であるが、学習指導要領実施に伴う授業改善やタブレットの導入など、今後新たな取り組みや工夫が求められる。また、成果が認められるものの、教員・生徒の入れ替わりなどで徐々に小さな問題が生じ出している可能性がある。今後、日々の刷新や改革、精選や創造など、革新された前向きな指導体制や指導方法を取り入れるような改善を進める。また、学校の抱える課題を学校運営協議会と共有し、課題解決に向けPDCAサイクルを繰り返す上でも、学校運営協議会委員と教職員が一層コミュニケーションを図っていく必要がある。								